

精糖今昔



三喜商社社長 井上武三

かつて、精糖という上場商品があり、東京、大阪、下関が流通の三大市場で、それぞれに砂糖取引所があった。小豆と並ぶ人気商品であった。

かつて、砂糖取引所は廃止になり、下関では建物までもが取りこわしになった。それが今になって砂糖の効能が急に評価されはじめたのである。

かつて戦中戦後、砂糖は今の麻薬にも似たヤミ物資であった。やがて自由化で潤沢になると、今度は肥満、糖尿の元凶と名指しされるようになって、逆に敬遠された。

父と小樽と先物と



日進貿易社長 幸作 太田

私の父はかつて小樽で雑穀商社を経営していました。戦前、小樽は手亡(II)いんげん豆)や小豆など雑穀の集散地として賑わいを極めていました。

かつて、小豆の買い占めラックなどはなく、運搬は、もっぱら荷車などを使っていました。

戦後も雑穀の大手輸出入業者として力を振るって、ホクレンが出てくる前は北海道の雑穀輸出の四割を当社が取り扱っていました。

宮本武蔵の教え



三貴商事社長 村上久広

江戸初期の剣豪、宮本武蔵はどこの、いつ生まれたかなど謎の多い人物ですが、なくなったのは熊本で間違いなく、その武蔵といふ名は、武蔵と言われている武蔵塚が熊本市の北にあり、熊本市の小学生のころ親父と自転車でよく行きました。

そこに、我、事において後悔せず。石に刻んであるのが子供心に響いたのを覚えています。

一度たりとも後れをとったことがないと記してあります。そこで、親父から、男は後

鎧橋随想

友は山村の貴重品



タイコム証券社長 西田昭博

旧友の慰問に紀伊半島山間の大塔村にいった。NHKの「ほんまもん」の世界であった。リストラされてからの電話を受けて、来年は大塔村に住むと聞いたとき

生活は十分堪能しているようだ。時には「先」住民との競争、化かしあいで、相手は一番うまい旬の時を知っている。

「買いにいかんでそこにあるもん使えいよし」木をどうやって運ぶんや」「トラクター回すから」「お前かなんや」電話では聞いたが、ソファアベットや屋外の大テーブルまで、結構忙しかついているのだらう。

珍品拝見

焼物万般 われ窯元に固執せず

フジフューチャーズ社長 坂井康明



焼物愛好家は深みにはまっています。坂井さん、〇〇焼、××焼と窯元の焼物趣味はこうした幼児元にとだわる傾きがある。坂井さんは全方位型で産地や作家には固執しない。

右衛門は持つていますが、第十二代がいいようです。坂井さんは益子焼にも目がないう。浜田庄司や河井寛次郎の作品は坂井さん愛蔵の珍品でもある。

小林洋行が六連覇

取引員親睦野球大会



平成十四年度商品取引員親睦野球大会(日刊工業新聞社主催、先物協会協賛)の決勝戦は、六月十三日、千葉マリンスタジアムで行われ、小林洋行が九回対六で光陽グループを破り、六連覇を達成した。

これで同社の優勝回数は通算十四回。これまでは、プロ野球のOBたちで固める小林洋行のワンサイドゲームが多かったが、今年度は光陽グループが力をつけ、小林洋行の連覇をおびやかす局面もあった。

小林洋行の清貴秀雄社長は「選手が高年齢化し、今年には危いと思っていたが、よく勝った。来年は補強し、練習も重ねて連覇記録を伸ばしたい」と語った。

証言・戦後先物史 東工取繁盛記(2)

東京工業品取引所特別顧問 間淵直三

一九八七年東京工業品取引所理事長に就任、難しい時期に舵取り役にいられたわけですが、何を一番先に手がつけられなかったか。

投票でザラバに決める

間淵 当時、カネツ貿易の社長をしていた古川昭夫さんが棄権したのも、その現れです。古川さんはザラバ派で立、渡辺佳英理事長辞任に結びついていた。その時、古川さんはカネツ貿易社長を辞任しましたが、村崎さんが、骨を拾って第一商品に入れました。これには、清水さんも感心していましたよ。それにしても、ザラバの採用は清水さんには痛手だったと思います。

システム売買スタート(平成3年4月1日)